

【九州大学芸術工学部 芸術工学科 環境設計コース】(2021年度以降入学者)

1) ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)

教育の目的

環境設計とは人間と環境の共生という理念にたつて、両者の関係のありかたを考察し、具体的に提案することである。本コースでは、エコロジー、持続可能性、資源、文化遺産、グローバル化、地域再生、景観といった近年の懸案に応えるため、芸術工学の基本理念にたつて、技術、人間、社会、自然に関する多角的な知識を集結し考察し、芸術的センスあふれる建築、都市、地域、ランドスケープなどをデザインできる創造的な設計家を、国内外の設計家資格に適合し国際的に通用する枠組みの中で養成する。そのため、以下の教育目標を達成した者に、学士(芸術工学)の学位を授与する。

- ・多様化する環境に関する諸問題に対し、主体的に関心を持ち継続的に学習できる。
- ・建築、都市、地域、ランドスケープに関する専門知識を有し、環境設計へ応用できる。
- ・環境を読み解く力、社会調査スキル、科学的思考力、表現能力、分析する力などの基礎的な能力を有する。
- ・時間、空間、他者、自然に対する想像力を持ち、広い視点から人間を取り巻く環境をより良いものにするための設計・計画・制度立案などの実践的解決能力を有する。

参照基準

- ・日本技術者認定機構、日本技術者教育認定基準 共通基準、2019
https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf
- ・日本技術者認定機構、日本技術者教育認定基準 個別基準、建築系学士修士課程プログラムにおける
勘案事項、及び建築設計・計画分野の学士修士課程プログラムに関する分野要件、2019
https://jabee.org/doc/Category-dependent_Criteria2019.pdf
- ・UNESCO-UIA 建築教育憲章 (UNESCO-UIA Charter for Architectural Education)
https://etsab.upc.edu/ca/shared/a-escola/a3-garantia-de-qualitat/validacio/0_chart.pdf

到達目標

A. 主体的な学び・協働

- A-1. 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、多様化する環境に関する諸問題に対し、解決に必要な情報や知識を自ら見出し、創造的・批判的・継続的に学習し、吟味・検討することができる。
- A-2. 自然に関する知識や様々な文化、社会、歴史などの知の交流を通じて多様な価値観を理解し、他者と協働して多面的に問題解決にあたる意欲を持つ。
- A-3. 論理的な文章表現力、口頭発表力、討議する能力をもって、環境設計の分野で国際的に通用するコミュニケーションができ、効率的に情報を発信、吸収することができる。

B. 知識・理解

- B-1. 教養・専門基礎、リメディアルの3つを意識した科目を通して、芸術工学分野に必要な数学、自然科学及び情報技術等の知識を使える力を備え、環境設計に応用できる。
- B-2. 芸術工学の基盤となる具体的知識や概念、考え方、方法について理解し、コースごとの専門にとどまらない普遍的なデザインのリテラシーを説明することができる。
- B-3. 建築、及び都市・地域の計画、設計に関する専門知識を理解し、環境設計に応用できる。
- B-4. 建築、都市・地域、それに関連する諸分野の歴史に関する知識を持ち、環境設計に応用できる。
- B-5. 建築技術分野における専門知識を理解し、環境設計に応用できる。

B-6. 緑地保全、及び緑地、都市・地域景観の計画、設計に関する専門知識を持ち、環境設計に応用できる。

B-7. 異なる文化、歴史に根差した社会の多様さを自覚し、環境設計が果たすべき役割と責任を理解できる。

C. 能力

C-1. 適用・分析（知識・理解の応用）

C-1-国際（国際プログラム）. デザイン一般、及び専攻する分野の理論や知識、スキルを英語で学び、世界における先端的なデザイン活動に参画する準備を行う。

C-1-1. 知識・理解の応用として、科学的な思考力に基づき、環境設計分野に関わる解決すべき課題を調査、認識し、論理的に分析することができる。

C-1-2. 知識・理解の応用として、計画、設計の内容を正確に他者に伝えることのできる表現能力を有する。

C-2. 創造・評価（新しい知見の創出）

C-2-1. 環境設計において、考慮すべき様々な制約条件を把握できる。

C-2-2. 時間、空間、他者、自然に関する想像力に立脚し、与えられ制約条件のもと、設計、計画、制度立案を進め、まとめることができる。

C-2-3. チームで協働して課題解決を図ることができる。

C-2-融合（融合プログラム）. 異分野との協働を通して、専門知識を総合的に活用しながら、社会の複合的な課題を提起し、解決することができる。

D. 実践（知識・理解の実践的場面での活用）

D-1 .用途、機能、美しさ、快適性を踏まえ、対象のもつ種々の条件を考慮しながら、環境にとって適切、かつ具体的な空間を提示することができる。

D-2. 社会の要請を踏まえ、既存の制度を前提としつつ、持続可能な社会を達成しうる仕組みの実現に向けて取り組むことができる。

D-3. 適切な環境を維持するために、制度や計画の継続性を考慮して、人的資源を有効に活用する組織を提案できる。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針に基づき、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（サイバーセキュリティー基礎論）、教養としての言語運用能力習得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、専攻教育を通して英語力習得を目指す科目（専門英語）、専攻教育につながる基礎的知識と様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン、理系ディシプリン）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合、高年次基幹教育）などの基幹教育科目の修得により、「主体的な学び・協働（A-1、2、3）」と「知識・理解（B-1）」の到達目標を達成したと評価する。

その上で、コース基礎科目、コース演習科目（PBL）、コース専門科目、デザインリテラシー科目、深化・展開科目の修得により、以下の通り、到達目標を達成したと評価する。

専攻教育においては、環境設計への導入科目「環境設計基礎Ⅰ、Ⅱ」を経て、建築、都市・地域の計画、設計の理論や手法等に関する授業科目、建築、都市・地域の歴史や文化財保護に関する授業科目、快適かつ

安全で、経済的な建物を設計、計画するための建築技術に関する授業科目、緑地保全や景観の計画、設計に関する理論や手法等に関する授業科目、多角的に課題を捉えるための人文科学、社会科学、デザイン学に関する授業科目の修得により「知識・理解 (B-2、3、4、5、6、7)」の到達目標を達成したと評価する。

さらに、環境設計に関わる理論や知識、スキルを英語で学ぶ授業科目とともに、描画、製図、造形の技術、測量実習、コンピューターを用いた設計、環境工学シミュレーション、地理情報システムの利用技術、建築材料実験、フィールドサーベイなどに関する授業科目の修得により「適用・分析 (C-1-国際、1、2)」の到達目標を達成したと評価する。また、法規制、及び生産技術に関する授業の修得により「評価・創造 (C-2-1)」の到達目標を達成したと評価する。設計演習科目「環境設計プロジェクト A、B、C、D、E、F」、「環境総合プロジェクト A、B」では、課題解決型の授業の修得により「評価・創造 (C-2-2、3)」を、さらに、具体的な設計、制度、組織等の提案を行うことで「実践 (D-1、2、3)」の到達目標を達成したと評価する。「コース融合プロジェクト A、B」では環境設計分野に留まらない課題解決型の授業の修得により「実践 (C-2-融合)」の到達目標を達成したと評価する。「卒業研究」では、「卒業研究」と「卒業設計」を行い、各授業科目を通して習得された知識・能力の体系化を図るとともに、問題発見能力、問題解決能力、問題解決のための具体的な計画・設計の提案能力を習得する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み (内部質保証)】

到達目標の達成度は、以下の方針 (アセスメント・プラン) に基づいて把握し、その結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性がないかを、環境設計コース会議の下に設置する教育改善委員会 WG において検討する。その検討内容は環境設計コース会議にフィードバックされる。

《アセスメント・プラン》

- ・「導入・基礎」期の評価：2年 2Q までの基幹教育科目、専攻教育科目 (特に、コース基礎科目) について、学生の成績評価を確認する。
- ・「発展」期の評価：3年 4Q までの専攻教育科目について、学生の成績評価に関わる情報を収集するとともに、授業科目や教育課程の適切性および改善点を把握する。
- ・「統合」期の評価：学びの集大成としての卒業研究の発表会を通じて、指導教員が学生の学びの達成度を確認する。

3) アドミッション・ポリシー (入学者受け入れ方針)

求める学生像

国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様な視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。

加えて、環境設計コースでは、次のような資質、意欲・関心を備えた学生を求めている。

1. 多様化する環境に関する諸問題に対して、空間の広がりや、歴史性をふまえて、問題を解決するためにどのような提案をすべきか、自ら判断する強い意欲を有する。
2. 建築、都市、地域、ランドスケープ等に関する専門知識を習得するために必要な基礎学力を有する。
3. 環境を読み解く力、社会調査スキル、科学的思考力、表現能力、分析する力を習得するために必要な環境や事物を観察する能力、創造的な感性を有する。

求める学生像と学力3要素との関係

- ① 知識・技能：高等学校等における基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。継続的な学習を支える好奇心。特に上記の求める学生像の2.に対応している。
- ② 思考力・判断力・表現力等の能力：多面的に考え、客観的に批判し、自分の言葉で人に伝える資質。鋭敏な観察能力と創造的な感性。特に上記の求める学生像の3.に対応している。
- ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：建築、ランドスケープ、歴史環境等の創造性に関わる環境設計関連分野への強い関心。多様性を尊重する態度、異なる考えに共感する寛容性。失敗を恐れない向上心。特に上記の求める学生像の1.に対応している。

入学者選抜方法との関係

	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力等の能力	③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜	調査書 大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査	調査書
総合型選抜	調査書 大学入学共通テスト	実技	調査書、志望理由書

芸術工学部芸術工学科 環境設計コース カリキュラムマップ

凡例	科目区分	基礎教育必修	専攻教育 デザインリテ ラシー科目	専攻教育 コース基礎科 目	専攻教育 コース演習科 目 (PBL)	専攻教育 コース融合 プロジェクト・ 目	専攻教育 コース専門科 目	専攻教育 卒業研究・設 計
----	------	--------	-------------------------	---------------------	---------------------------	-------------------------------	---------------------	---------------------

区分	学修目標	1年生				2年生				3年生				4年生				
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
実践	D-3.適切な環境を維持するために、制度や計画の継続性を考慮して、人的資源を有効に活用する組織を提案できる。					環境設計プロジェクトA	環境設計プロジェクトB	環境設計プロジェクトC	環境設計プロジェクトD	インターンシップ				インターンシップ				
	D-2.社会の要請を踏まえ、既存の制度を前提としつつ、持続可能な社会を達成しうる仕組みの実現に向けて取り組むことができる。									環境設計プロジェクトE	環境設計プロジェクトF	環境設計プロジェクトG	環境設計プロジェクトH	環境総合プロジェクトA	環境総合プロジェクトB			
	D-1.用途、機能、美しさ、快適性を踏まえ、対象の持つ様々な条件を考慮しながら、環境にとって適切、かつ具体的な空間を提示することができる。																	
評価・創造	C-2.融合。異分野との協働を通して、専門知識を総合的に活用しながら、社会的複合的な課題を・提起し、解決することができる。						コース融合プロジェクトA,B	コース融合プロジェクトA,B				コース融合プロジェクトA,B	コース融合プロジェクトA,B		コース融合プロジェクトA,B	コース融合プロジェクトA,B		
	C-2-3.チームで協働して課題解決を図ることができる。																	
	C-2-2.時間、空間、他者、自然に関する想像力に立脚し、与えられた条件のもと、設計、計画、制度立案を進め、まとめることができる。									建築法規			建築生産					
	C-2-1.環境設計において、考慮すべき様々な制約条件を把握できる。													卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ			
適用・分析	C-1-2.知識・理解の応用として、環境設計分野に関する計画、設計の内容を正確に他者に伝えることのできる表現能力を有する。	空間表現実習Ⅰ		空間表現実習Ⅱ		空間デザイン実習												
	C-1-1.知識・理解の応用として、科学的な思考力に基づき、環境設計分野に関する解決すべき課題を調査、認識し、論理的に分析することができる。	図形科学Ⅰ	図形科学Ⅱ															
	C-1-国際デザイナー。及び専攻する分野の理論や知識、スキルを英語で学び、世界における先端的なデザイン活動に参画する準備を行う。	自然科学総合実験(基礎)	自然科学総合実験(発展)	自然科学総合実験	基礎科学実習			空間情報分析実習Ⅰ	空間情報分析実習Ⅱ	環境テクノロジー実習A	環境テクノロジー実習B			歴史環境実習				
	C-1-国際デザイナー。及び専攻する分野の理論や知識、スキルを英語で学び、世界における先端的なデザイン活動に参画する準備を行う。					Start-ups and Global Disruptors	Global Design Innovations	Design Pitching Skills	Intellectual Property Rights: Global Perspective	国際環境デザインⅠ	国際環境デザインⅡ	国際環境デザインⅢ	国際環境デザインⅣ					
知識・理解	B-7.異なる文化、歴史に根差した社会の多様性を自覚し、環境設計が果たすべき役割と責任を理解できる。								環境社会デザイン論	物質文化論	環境倫理学							
	B-6.緑地保全、及び緑地、都市・地域景観の計画、設計に関する専門知識を持ち、環境設計に応用できる。								環境保全論	緑地環境設計論	ランドスケープデザイン論							
	B-5.建築技術分野における専門知識を理解し、環境設計に応用できる。			環境設計基礎Ⅰ	環境設計基礎Ⅱ	環境調整システム論	環境材料Ⅰ	環境材料Ⅱ					設備計画論					
	B-4.建築、都市・地域、それに関連する諸分野の歴史に関する知識を持ち、環境設計に応用できる。					構造理論Ⅰ	構造理論Ⅱ						構造システム論Ⅰ	構造システム論Ⅱ				
	B-3.建築、及び都市・地域の計画、設計に関する専門知識を理解し、環境設計に応用できる。							建都市環境設計論	建築デザイン計画論	環境構法論	構法設計論	建築空間設計論	環境情報論Ⅰ	環境情報論Ⅱ				
	B-2.芸術工学の基礎となる具体的知識や概念、考え方、方法について理解し、コースごとの専門にとどまらない普遍的なデザインのリテラシーを説明することができる。	デザインリテラシー基礎	デザイン・ケーススタディⅠ			人間科学とデザイン	科学技術とデザイン						デザイン・ケーススタディⅡ					
	B-1.教養・専門基礎、リメディアルの3つを意識した科目を通して、知識を伝える力を備えることができる。	デザインリテラシー基礎	デザイン・ケーススタディⅠ			基礎造形Ⅰ	基礎造形Ⅱ	基礎造形Ⅲ	基礎造形Ⅳ									
		入門線形代数Ⅰ	入門線形代数Ⅱ	入門微積分Ⅰ	入門微積分Ⅱ	数理統計学		データ解析										
		力学基礎						デザイン史										
		プログラミング演習																
主体的な学び・協働	A-3.文章表現能力、発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収することができる。	言語文化科目(第二外国語Ⅰ)		言語文化科目(第二外国語Ⅱ)						ファシリテーション								
	A-2.自然に関する知識や様々な文化、社会、歴史などの知の交流を通じて多様な価値観を理解し、他者と協働して多面的に問題解決にあたる意欲を持つ。																	
	A-1.深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、多様化する環境に関する諸問題に対し、解決に必要な情報や知識を自ら見出し、創造的・批判的・継続的に学習し、吟味・検討することができる。																	
		芸術英語・アカデミックイシューズ	学術英語・プロダクション1	学術英語・プロダクション2	専門英語	専門英語												
		学術英語・グローバルイシューズ																
区分	学修目標	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
学士課程の時期区分		導入・基礎期								発展期				統合期				
アセスメント・プラン		達成度調査(専門力)その1								達成度調査(専門力)その2				卒業研究の審査【共通ルーブリック】				